1:1 冗長性の設定

- 1:1 冗長性の前提条件 （1 ページ）
- 1:1 冗長性に関する情報 （1 ページ）
- 1:1 冗長性の設定方法 （2 ページ）
- スタックモードの確認 （3 ページ）
- 1:1 冗長性の構成例 （3 ページ）
- 1:1 冗長性に関する追加の参考資料 （4 ページ）
- 1:1 冗長性の機能履歴 （4 ページ）

1:1 冗長性の前提条件

- スタック内のすべてのスイッチがアクティブスイッチと同じライセンスレベルを実行している必要があります。ライセンスレベルについては、必要なリリースの『System Management Configuration Guide』を参照してください。
- スタック内のすべてのスイッチが互換性のあるソフトウェアバージョンを実行している必要があります。

1:1 冗長性に関する情報

1:1 冗長性は、スタック内の特定のスイッチにアクティブロールとスタンバイロールを割り当てるために使用されます。これにより、スタック内の任意のスイッチをアクティブまたはスタンバイにすることができる従来の N+1 ロール選択アルゴリズムが上書きされます。1:1 冗長性では、フラッシュの ROMMON 変数に基づいて、スタックマネージャが特定のスイッチについてアクティブとスタンバイのロールを決定します。このアルゴリズムは、1 つのスイッチをアクティブ、別のスイッチをスタンバイとして割り当て、スタック内の残りのすべてのスイッチをメンバーとして指定します。アクティブスイッチが再起動するとスタンバイになり、既存のスタンバイスイッチが新しいアクティブになります。既存のメンバースイッチは同じ状態のままです。

1:1 冗長性の設定方法

1:1 冗長性スタックモードの有効化

1:1 冗長性スタックモードを有効にし、スイッチをスタック内のアクティブスイッチ、またはスタンバイとして設定するには、次の手順に従ってください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device> enable`	特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**switch** *switch-number* **role** {**active** | **standby**} 例： `Device# switch 1 role active`	スタックモードを 1:1 モードに変更し、スイッチをアクティブまたはスタンバイとして指定します。

1:1 冗長性スタックモードの無効化

1:1 冗長性が有効になっているスイッチでは、次の手順に従って機能を無効にします。これにより、スタックモードが N+1 に変更されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device> enable`	特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**switch clear stack-mode** 例： `Device# switch clear stack-mode`	スタックモードを N+1 モードに変更し、アクティブおよびスタンバイの割り当てを削除します。

スタックモードの確認

スイッチの現在のスタックモードを確認するには、特権 EXEC モードで **show switch stack-mode** コマンドを入力します。出力は、現在実行しているスタックモードの詳細なステータスを表示します。

```
Device# show switch stack-mode
Switch   Role    Mac Address    Version   Mode    Configured   State
-------------------------------------------------------------
1       Member 3c5e.c357.c880             1+1'     Active'     Ready
*2      Active 547c.69de.cd00    V05      1+1'     Standby'    Ready
3       Member 547c.6965.cf80    V05      1+1'     Member'     Ready
```

`Mode` フィールドには、現在のスタック モードが表示されます。

`Configured` フィールドは、再起動後に想定されるスイッチ状態を参照します。

単一引用符（'）は、スタック モードが変更されていることを示します。

1:1 冗長性の構成例

例：1:1 冗長性スタックモードの有効化

switch switch-number role コマンドを使用して、アクティブスイッチおよびスタンバイスイッチを 1:1 スタックモードに設定できます。スタックは、リブート後、指定されたアクティブまたはスタンバイで 1:1 スタックモードで動作します。次の例では、スイッチ 1 にアクティブロールが割り当てられ、スイッチ 2 にスタンバイロールが割り当てられます。

```
Device# switch 1 role active
WARNING: Changing the switch role may result in redundancy mode being configured to 1+1
 mode for this stack. If the configured Active or Standby switch numbers do not boot up,
 then the stack will not be able to boot. Do you want to continue?[y/n]? [yes]: yes

Device# switch 2 role standby
WARNING: Changing the switch role may result in redundancy mode being configured to 1+1
 mode for this stack. If the configured Active or Standby switch numbers do not boot up,
 then the stack will not be able to boot. Do you want to continue?[y/n]? [yes]: yes
```

例：1:1 冗長性の無効化

switch clear stack-mode コマンドを使用して 1:1 スタックモードを削除し、N+1 スタックモードに戻すことができます。

```
Device# switch clear stack-mode
WARNING: Clearing the chassis HA configuration will resultin the chassis coming up in
Stand Alone mode after reboot.The HA configuration will remain the same on other chassis.
 Do you wish to continue? [y/n]? [yes]:
```

1:1 冗長性に関する追加の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	該当するリリースの『Command Reference』『』『』『』『』のスタッキングおよび高可用性コマンドセクションを参照してください。

1:1 冗長性の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	1:1 冗長性	1:1 冗長スタックモードを有効にし、スタック内の特定のスイッチにアクティブロールおよびスタンバイロールを割り当てることができます。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、https://cfnng.cisco.com に進みます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。